

密集市街地の小さな広場を活用した 地域防災力向上に向けた挑戦。

1 社会資本の概要

大阪市には、JR大阪環状線の外周部を中心に、密集市街地が広く分布し、建物の老朽化や建て詰まりに加えて、狭隘な道路が多く、公園やオープンスペースが不足するなど、防災面や住環境面で様々な課題を抱えています。こうした課題に対し、大阪市では、災害時は一時避難場所として、日頃は地域防災活動の場やコミュニティをはぐくむ場として、地域住民と連携・協働しながら「まちかど広場」の整備を行っています。

大阪市生野区にある「まちかど広場（ももに広場）」は、民間企業から「創業の地を無償で提供し、地域に貢献したい」という貴重な申し出を頂き、大阪市が国の社会資本整備総合交付金を活用して整備した約200㎡の小さな広場です。



無償で提供いただいた広場用地



整備後の「ももに広場」



2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

当地区は、高齢化等による地域コミュニティ活動の担い手や参加者の不足、世代を超えた住民同士が交流できる場の減少等の課題により、地域コミュニティが希薄化しつつありました。

そのため、ももに広場の整備にあたっては、地域住民参加のワークショップ方式による広場の基本計画づくりからスタートしました。その結果、大規模地震等の発生を想定し、雨天時でも応急活動が実施できるようフェンスにシートを設置できる工夫や、炊き出しができる「かまどベンチ」の設置など、地域住民のアイデアが反映された広場が整備されました。災害発生時に一時的な避難場所としてスムーズに対応できるよう、広場で開催する様々なイベント時にも、シートやかまどベンチを積極的に活用しています。



普段はベンチ



炊き出し等ができる「かまどベンチ」
普段のイベントでも積極的に活用



フェンスにシートが設置できる工夫
イベント時は日除けとしても活用



大阪府 大阪市

ももに広場管理運営会 / 大阪市



3 活動の成果や波及効果等

ももに広場を舞台に、独自のアイデアで様々なイベントを企画・実施しています。毎月開催の「青空カフェ」は、地域住民の憩い・交流・新しい活動のアイデア創出の場となっており、生野区発祥のスポーツ「スリーアイズ」をアレンジして創出されたゲーム「おじゃぼん」も広場で誕生しました。また、近隣の老朽家屋跡地には「ももに農園」を自主整備し、四季折々の野菜をみんなで栽培・収穫し、青空カフェでいただきます。春の恒例イベント「広場誕生祭」や秋の「敬老祭」では、手づくりの花束を渡すなど、地域ぐるみで入学と長寿をお祝いします。

年末の「光の祭」では、その年に地域で亡くなられた方々を偲び、悲しみを分かち合うことで、地域の結びつきを深めるなど、多様な世代間の交流を促しています。こうした様々な取組が「共助力」を育み、地域防災力の向上に繋がっています。



広場で生まれた「おじゃぼん」



長寿を祝う秋の「敬老祭」



みんなで祝う春の「広場誕生祭」



故人を偲ぶ冬の「光の祭」

喜びの声



受賞者

ももに広場管理運営会 会長 岸村 修

コメント

苦労の時代を地域と共に生きた寄贈者の「創業の地を、地域に提供したい」という志は「人は助け合って生きるもの」とのメッセージでもあり、ももに広場の合言葉「みんなの広場、あしたの広場」は生まれました。一人ひとりが日々の小さな喜びを見つけ、その喜びを持ち寄り、繋ぎあうことで、この街を、暮らしを、そして明日を変える大きな力に育てたいと思っています。

活動内容

- ・広場の維持管理（清掃・除草等）
- ・地域防災力向上に繋がるイベントの企画・運営 など

活動の経緯

- 平成23年10月 土地の無償提供の受諾式
- 平成23年11月～ ワークショップによる広場の基本計画づくり
- 平成25年2月 ももに広場の完成
- 平成25年3月～ 「ももに広場管理運営会」による管理運営開始

手づくり郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

大阪府大阪市生野区勝山北2丁目

活動主体及び連絡先

ももに広場管理運営会

対象となる社会資本

ももに広場

管理者：ももに広場管理運営会

整備者：大阪市都市整備局 (06-6208-9234)

